



1. 遠景  
(西より)



2. 近景  
(東南より)



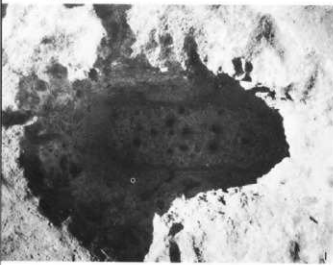
3. 近景  
(南より)

1. E地区  
(西南より)

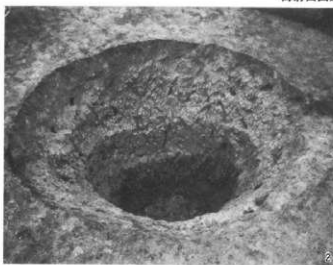


2. F地区  
(南より)





1. 土埴16号  
2. 土埴1号



3. 集石1号  
4. 同断面



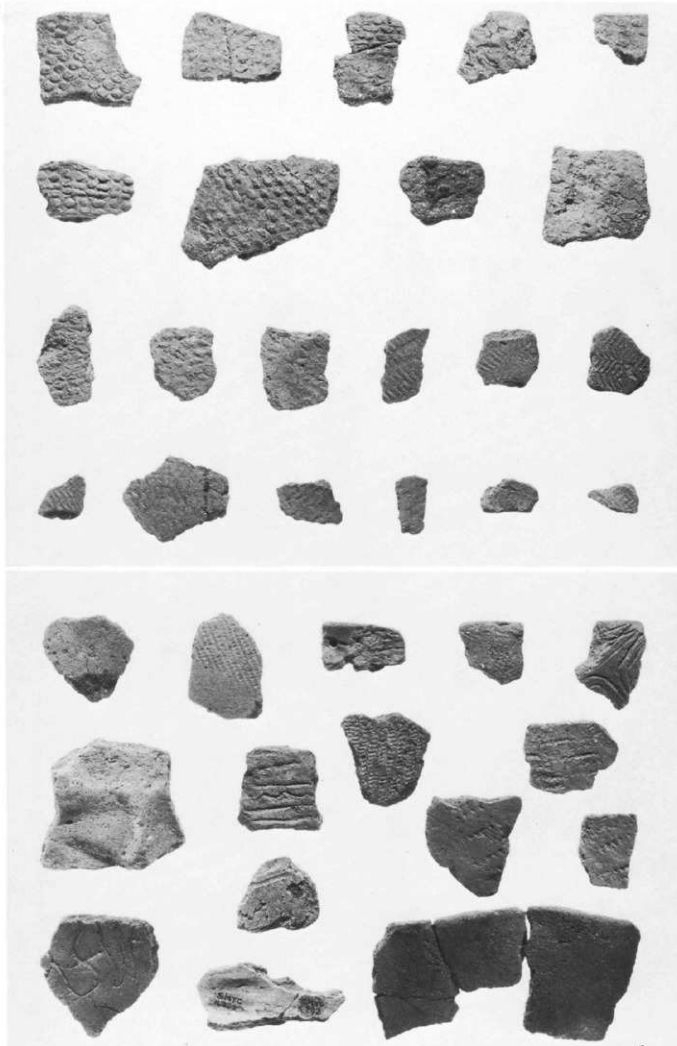
5. 6  
ロームマウン  
ド9・14号



7. 断面



出土土器  
(1:2)





1. 出土石器  
(1:3)



2. 出土石器  
(1:3)



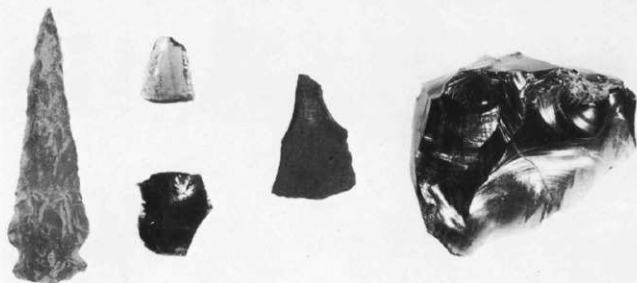
昭和54年度  
発掘出土遺物

1. 出土土器  
(1:2)



1

2. 出土石器  
(1:1)



2

3. 出土石器  
(1:3)



3

1. 近景  
(南東より)



2. 近景  
(北より)

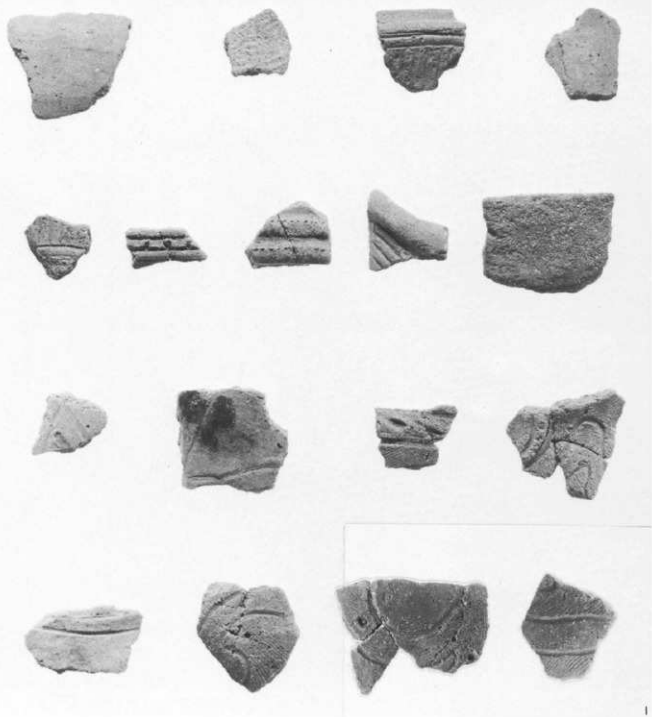


3. 土坑3号





1. 出土土器  
(1:2)



2. 出土石器  
(1:1)

3. 出土石器  
(1:3)



執筆分組一覧（五十音順）

青沼 博之	II章-2節-1・2・3・4・5	3節-1・2・3・4・5
岩佐今朝人	II章-1節-1, 3-3)-(1)・(2)・(3)・(4)・(7)-(1)・(2)・(4-2)-(4)・(4)-(2)	
伴 信夫	II章-1節-3-2)-(1)・(2)・(3)・(4)・(5)・(6)・(7)・(3)-(4)・(6)・(4-2)-(2)・(3)	
樋口 昇一	I章-1節-1)・2)-(1)・(2)・(3)	
樋口 誠司	II章-1節-3-1)-(1)・(2)・(4-2)-(1)・(3)-(2)	
丸山日出夫	II章-1節-2, 3-5)-(1)・(2)・(4-3)-(1)・(4)-(1)	

あとがき：業務分組の関係で、遺跡発掘担当者や参加者が本報告作成の中心となれず、整理段階から加入した岩佐主任や丸山、樋口（誠）両調査補助員に多大の労苦をかけることになってしまった。勿論、担当者であった伴、青沼次主任も主務となる他遺跡の仕事と兼務で精励していただいた。かつ、印刷費等の高騰から大幅な減頁を余儀なくされ、当初の子定を数十頁隔という事象となり、完成した図や図版を再編し、あわせて原稿書きかえの必要が生ずるなど、多大のロスを克服して、ようやくここに出版の運びとなった。これは同時に発刊する、『茅野市その3』も全く同様であり、小林秀夫主任をチーフとした百瀬長秀、和田博秋両主任、止本賢司調査員など1月以来日曜日も休まず、かつ毎日残業までした結果の賜であり、函長として、担当者諸君や助手の方々に厚く感謝する次第である。

なお、本書及び先記した『茅野市その3』は、共に大規模な遺跡という程でないが、検出された遺構・遺物については、できるだけ正確な記録と観察の結果を記述しあわせて短時間ではあったが、その分析を試みる努力がされている。大方の御叱正と御批判をいただき、残された阿久、屑沢尾根、御社宮司という問題点の多い大遺跡の報告書作成に生かしたいと存じます。

我々の調査した諏訪地方の諸遺跡はあと旬日にして、その頭上を自動車が行くようとしている。開通に伴う経済的・社会的発展を祝福する一方、消え去った遺跡に対する我々の保護措置の万全であったかどうかを危惧する念がないとはいえない。残されたあと1年間、余力を尽して12年間における調査の終結を迎えるよう努力した

（樋口昇一）

長野県中央道標識文化財包蔵地発掘調査報告書

——茅野市その4・喜上見町その3 昭和51・53年度——

昭和56年3月20日 印刷

昭和56年3月25日 発行

編 集 長野県中央道遺跡調査団

発行者 日本道路公団名古屋建設局  
長野県教育委員会

印刷所 長野市西和田 470  
信毎書籍印刷株式会社

(非売品)

